

1/10 3.7.9

沖縄の感染爆発

新型コロナウイルスのオミクロン株による沖縄県の感染爆発は歯止めがかかるません。米軍基地との関連性や政府の責任について、沖縄在住の医師で、筑波大学客員教授の徳田安春氏に聞きました。

(田中智)

徳田安春さんに聞く



筑波大学客員教授

沖縄県の感染爆発は、米軍との関連性が明らかであります。新型コロナのオミクロン株感染が県内で最初に見つかったのは、米軍関係者でした。基地内でクラスター（感染者集団）が発生していました。日本政府は米側に検査の再開や外出禁止をただちに認めたが、翌12月15日頃まで手遅れとなってしまった。これが、対応も遅れています。

米軍との関連は明らか

沖縄県の感染爆発は、米軍との関連性が明らかであります。新型コロナのオミクロン株感染が県内で最初に見つかったのは、米軍関係者でした。基地内でクラスター（感染者集団）が発生していました。日本政府は米側に検査の再開や外出禁止をただちに認めたが、翌12月15日頃まで手遅れとなってしまった。これが、対応も遅れています。

それに対する政府の動きはまったく弱く、県内の健康被害を軽視していると思います。オペレレイなどの爆音も毎日、朝から晩まで爆音をひりひりさせ、窓を開けられません。新型コロナ対策では、換気は重要ですが、窓を開けたら耳が痛くなる騒音があります。

とくに・やすはる 医師。筑波大学客員教授。琉球大学医学部卒、2000年にハーバード大学大学院で公衆衛生修士取得。聖路加国際病院一般内科医長などを歴任。

す。在沖米軍基地では、日本への入国前に検査、入国情報も24時間以内に検査したうえ、2週間の隔離を徹底していました。ところが、ワクチン接種が進んだりとあって、ひそかに昨年9月から検査を中止していました。入国情報の検査が再導入されたのは年末の29日あたり。いまだに自由に基地の外に出入りしている人がマスクの義務化などしかやっていません。

沖縄に住む医療者の立場から見ると、基地があることで起きた健康被害がありにも大きいと感じます。それに対する政府の動きはまったく弱く、県内の健康被害を軽視していると思います。オペレレイなどの爆音も毎日、朝から晩まで、あらわれていました。

新型コロナ株による感染をやめてしまったので、検査をやめてしまひました。ワクチン一本足打法の限界がオミクロン株によって、あらわれました。

根本に地位協定とバイパスと書えます。本来なら政府は、日本の軍は、何度もアウトブレイク（感染症の突然的発生）を起こしてしまった。軍の施設内や軍艦などで爆発していました。徹底した水際対策や検査体制を導入したところ、一定程度抑えられたようになってしましました。しかし、ワクチン接種がスタートし、かなりの割合を達成したところで、これまでの行動に対する懲罰的な対応でも対応しても差別がないのか検証するべきだと思いま

す。米軍も他国では実施していない検査をやらないといふのは、日本に対する懲罰とも言えます。中国の民族差別問題なども問題ですが

米安全保謢協議会（2プラス2）になってから求めても、あまりにも遅い対応です。世界中でオミクロン株が広がり、WHOも警戒を発してしまったのに、それを無視して何もしていないなかで、不作鳥の責任は厳しく聞われるべきです。

とバイパスと書えます。います。

米安全保謢協議会（2プラス2）になってから求めても、あまりにも遅い対応です。世界中でオミクロン株が広がり、WHOも警戒を発してしまったのに、それを無視して何もしないなかで、不作鳥の責任は厳しく聞われるべきです。

沖縄に住む医療者の立場から見ると、基地があることで起きた健康被害がありにも大きいと感じます。それに対する政府の動きはまったく弱く、県内の健康被害を軽視していると思います。オペレレイなどの爆音も毎日、朝から晩まで、あらわれました。

根本に地位協定とバイパスと書えます。本来なら政府は、日本の軍は、何度もアウトブレイク（感染症の突然的発生）を起こしてしまった。軍の施設内や軍艦などで爆発していました。徹底した水際対策や検査体制を導入したところ、一定程度抑えられたようになってしましました。しかし、ワクチン接種がスタートし、かなりの割合を達成したところで、これまでの行動に対する懲罰的な対応でも対応しても差別がないのか検証するべきだと思いま

す。米軍も他国では実施していない検査をやらないといふのは、日本に対する懲罰とも言えます。中国の民族差別問題なども問題ですが

米軍側は、感染者数は公开しますが、感染経路や陽性率などの情報は一切出しません。その根本には日本から「検証」の結果を知らないことが必要です。